

(7) 実践例5 評価へのアプローチ（大仁中事例）

平成28年7月に出された文部科学省の評価に関する専門家会議報告書には、評価のポイントとして生徒がどれだけ成長したかを授業中の発言や感想文などをもって把握し、他の生徒とは比べず、数値ではなく記述式の評価を行うとある。大仁中でも同じく生徒の道徳ノートに書かれた振り返りを基に評価をしている。また研究テーマに「内省と実践をつなぐ道徳授業の創造」～道徳教育の要として道徳授業と評価を通して～とあるように、評価についての研修を進めてきた。また生徒の学習状況を把握して評価することを通して、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、教師の指導に生かすようにしている。



中1 「世界に誇る日本の心」

内容項目：国を愛する態度

…私は世界に誇る日本の心は思いやりの心だと思います。日本にしかない気遣いの心や思いやりの心、優しさが誇りだと思います…その日本人としての気持ちを出して生活して行きたいです…

生徒の振り返り

上記の生徒に対して教師のコメント

授業を通して相手を思いやり、気遣いを大切にする日本の良さに気付きましたね…



資料名

娘のふるさと

NO. 19

7月6日

私はふるさととは、自分が生まれ育ち、なつかしいと感じられる「特別な土地」のことだと思います。離れたときに、帰りたいと思える場所であったり、あまり感しない場所であ

たりするけれど、誰にでもふるさとはあります。

私にとってのふるさは伊豆の国市です。生まれたのは別の場所だけど、幼少期や今を

この場所ですごしているのが私の一番のふるさとだと思います。私のふるさとである、

この伊豆の国市はとてもいい場所だと思います。自然が豊かで、歴史も深く、伊豆などの特産品

もあり、そして住みやすいです。小学校では、その自慢について調べ、関心を深めました。

これから、私は他のまちに住むかもしれませんが、ここが私のふるさとです。自慢できるように

さらに関心を高めたいと思います。また、その際、堂々と言えるようなまちにしてい

くことも大切なので、一人一人が「いいまち」にするべきだと思います。

■ 通知表への記載

本年度より道徳の時間の学習状況などの表れについて、通知表への記載を試みた。生徒の学習状況や成長の様子を教材名と共に前期・後期どちらかに載せている。その際、ポートフォリオとして活用している道徳ノートが生かされている。

【通知表例文】

「二通の手紙」という教材では、ルールを守るとは結果として自分自身を守ることにもつながることに気付きました。

